

**金子：**すよ、ママとパパどっちが好きって。そしたら「ママ！」って言って、もう一回聞いたら気を遣って変えてくれるかなと思ったら、一回目より大きな声で「ママ！」だって、もうがっくり。



ああこれ「パパ完敗だ」って言つたら、食事中だったんで、うちの颯良くんコップもって、「かんぱーい」って。ちょっと悔しかったんで、それから二人で出かける機会を多く作ったりとかしてます。そうすると信頼関係も徐々に深まっていきますね。そういう意味ではたまにママには好きにちょっと行つてもらう方がいいかなと思ってるんですけど。

**司会：**「風呂育」という言葉をブログに書かれているんですか。これはどんなことなんですか。

**金子：**よく今、「知育」って聞くと思うんですけど、自分なりの教育法みたいなものないかなと思って考えたんです。それで僕は水泳をやっていたので、水の楽しみ方は知っているからお風呂で泳ぎ方を教えた。のちのち川で事故とかあるかもしれないし、自分でやっぱり泳げる方がいいじゃないですか。そのためにも早いうちから水に慣れさせたいと思って、お風呂の中で泡出したりとかして水を楽しいものに思わせる。あとは、その中で楽しく数字ったり、アルファベット、ひらがなでものの名前とか覚えられるように、壁にいろいろ貼って、それにスポンジの何か貼り付けて、答え合わせできるようにします。あとバタ足の練習とかも。僕が立て膝で座って、赤ちゃんを膝の上に乗つけるんですよ。胴体を支えると、足をバタバタバタつて、今楽しそうにやってますね。スイミング教室もいつるんで、一緒に。

**司会：**でも不規則な生活、お仕事の流れの中でお風呂入る時間は、確保できますか？

**金子：**不思議とですね。あまり遅い時間に帰る仕事がそんなになくて、けっこう夕方過ぎくらいに帰れちゃうんですよね。まず朝の番組が増えたつていのと、あと口げも夕方くらいで終わるものが多いんで。結構、いま会社員のように帰つてます。

**司会：**それはご家庭にとっては非常にいい流れですね。常に子育てするとき、子どもに対してこういうことはやめようとか、こういうことはあえてしようとか、接する場合に意識していることって何かありますか？

**金子：**子どもの興味を壊さないようにしています。こっちが興味を持ってほしいことを押し付けないようにして、子どもが興味を持ったらそれを自由にやらせるようにします。

**司会：**どうしてもちょっと危なかつたりすると、あれだけこれだめとか、自分がしなきゃいけないことあると、忙しいからだめだよとか、言っちゃうこともあるのでは？

**金子：**あんまりないです。やりたいっていったらずっと付き合ってやってますね。あとは、挨拶はそういうさく言ってますね。僕も父にすごい言われました。特に東京では同じマンション住んでも全然挨拶しない人多くて、誰が住んでるかわからないんです。でも挨拶していたら、自分の子どものこと覚えてもらえて、もし何かあったときに気づいてもらえると思う。僕の

お父さんはずっと祭りの会をやってたんですよ。僕は、ちっちゃい頃から町内会の人に囲まれて育ってきたので、16歳くらいから一人暮らししても、町ぐるみで育ててもらったみたいな感じなんですよね。「たかちゃんお金ないでしょ、今日うちでご飯食べてきなさいよ」みたいな。そういう町の人たちに見てもらえる子どもに育つてほしいので、そういう意味で挨拶はすごいうるさくいますね。「ありがとうございました」「いただきます」「こんにちは」、全部そうですね。

**司会：**育児に関して、例えばいま静岡県でも保育所がどうのとか、公園がもつとあつたほうがいいとか、それぞれの立場であると思うんですが、そのへの育児環境でもう少し違うなつたらと感じることってありますか？

**金子：**もうちょっとママ同士が交流できるお店を増やしてほしいと思います。近所にそういうお店がないので。たとえば、喫茶店に行ったとしても、子どもがうろちょろしてたらやっぱり話しに集中できないだろうし、子どもも楽しくないと思うんですよね。今ほしいと思うのは、子どもが遊べるスペースがある喫茶店みたいなところ。アレルギーとかにもちろん気をつけてくれるところが近所にあったらいいですね。

**司会：**東京なんかだと、ありそうですが。

**金子：**ちょっと離れると、「ママトコ」っていって、ガチャピンとかムックがいたりするんですけど。

**司会：**フジテレビがやってる。

**金子：**そこは、子どもが2歳以上だと保育士の姉さんみたいな人が見てくれる。その間にお父さんはこっちでご飯を食べられるし、子どもたちも食べられるように、料理のピュッフェには全部アレルギー対策してある。そういうところが近所にあったらいいのに。むしろ自分でやってみたいというのもあるんですよ。あとは、子どもが参加できるイベントをもっと作ってもらって、参加したいですね。そういう意味では祭りってのはすごい大切にしています。なかなか東京でも参加する人が減ってきて、昔は僕も山車を引いたりとかしました。祭りとかに顔出すとすごいいろんな人と出会えて、いいと思う。

**司会：**どんどんそういう地域の活動が減つてきます。子どもが生まれると逆にそういうものありがたみが、わかるようになりますね。これから育児を通じ、どんどん颯くんと一緒にパパとして成長していくと思うんですけど、自分の中で理想の父親像って何かありますか？

**金子：**理想の父親像ですか、ロッキーですかね。ロッキーになりたいってわけじゃないんですけど、父親としては常に何か目標を持ってチャレンジしていく姿、父親も社会に出て戦って生きているんだよっていう姿を見せたいと思っています。親も悩んだり挫折したり、いろいろしてのを知つてもらいたい。たとえば小さい頃から何も挫折しないで育つて、社会に出てから初めて挫折すると会社をすぐにやめたりする子がいるじゃないですか。そうはなつてしまないので、挫折はするもんだと思って、たくましく育つほしいですね。

**司会：**同世代のお父さん仲間と比べて、自分で相当育児にかかわってるなっていうのは感じますか？

**金子：**僕の周りには育児に参加している人が多いですね。なので、特別やってるって思わない。むしろもっとやってる人がいて、自分と比べられそうでたまにやめてよっていとうございますからね。うちで今それ言わないでっていうときありますから。

**司会：**でもこうやって情報発信することによって、世のお父さんたちに何か感じほしいという思いがあると思うんですけど。

**金子：**僕も友達から、自分がやってないことやつたりしてのを聞くと、「あつ！」とか思う。話を聞くと、逆にみんながんばって子育てしているんだなって感

じますね。自分も疲れた、ちょっと休みたいって思つても、そういう話を聞くとがんばらなきやつ思います。あと、比べちゃいけないっていって、多少なりとも自分の子をよその子と比べるじゃないですか。やっぱり、よその子がこのくらいできるんだつたら、うちの子だってと思うと、またより子育てにがんばれる。知り合いの子はパズル100ピースを2歳でやるって聞いて、うちの子にやらせたら最初10何ピースしかできなかつた。悔しいと思つてやらせ続けたら、いまやつと43ピースくらいできるようになってきた。親のそういう負けん気もパワーになると思うので、たまに比べるのもいいかなあつて思うんですよね。

**司会：**そういう前向きな、刺激にする「比べる」ってのもいいかもしれませんね。颯くんにはどんな子に育つてもらいたいですか？

**金子：**そうですね。人に迷惑をかけず、自分のやりたいことをちゃんと見つけて、夢を持って生きほしいと思いますね。やっぱりいま、これから日本ってもつもつと夢を見づらくなる不安があるんで、逆に本当に夢とか希望を大切に思える子どもになってほしいですね。夢見ることがちょっと恥ずかしいとか、そういうふうにはなつてほしくはない。夢見ている人を応援できる人になってほしいですね。



**司会：**2歳から3歳、4歳と成長するにしたがつて、また閑わり方で変わつて思うんですけど、そのあたりの不安とか楽しみとか意気込みとかその辺はどうでしょう。

**金子：**これから本格的に息子と運動ができるようになると思うんで、こっからが父親の見せどころかな。運動会とかもあるので、最近なるべく走るようになりますね。運動会でたまにいるじゃないですか、久々に走つて足もつれちゃつてこけちゃうお父さんとか。それにはなりたくないなつて思つて、いまよしつちゅうフットサルとかして走るようにしています。サッカーが好きなんで、よく二人で公園いってサッカーしてますね、今は。

**司会：**ボールけつたりとか興味のほうはどうですか？

**金子：**これがすごいんですけど、初めてボールを渡したときにドリブルしたんですよ、何にも教えてないのに。

**司会：**ちなみにそのとき何歳なんですか？

**金子：**1歳8ヶ月くらいです。公園でボール渡したら何も教えてないのに、「たーん、たーん」つていて、またぎフェイントをちょっとしたんですよ。キングカズさんがやる、またぎフェイントってあるじゃないですか。歩いてドリブルして、最後にまたいだんですよ。これ見たときに、子どもの将来はサッカー選手など。エスパルスとかジュビロとかのサッカー選手にさせたいと僕は勝手に思つてます。でも親として、現実的に考えるとサッカーの選手生命が26歳くらい、やっぱ野球選手の方がいいかとかいろいろ考へてしまう。

**司会：**同世代のお父さんたちに、子育てについてのメッセージはいかがでしょう。

**金子：**うまいこといえないんですけど、自分が親に育てられてやつもらつた

ことが、すごいあると思うんですよね。子どもに対して自分がこれやってあげたいなって思つたら、それを率先してやってあげることがまず一步じゃないかな。それをやってみて、子育ての喜びをちょっとずつ覚えていく、何かもっと子どもが感情表現とかアクションできるようになったときに、その喜びがどんどん大きくなつて思う。小さなことからこつこつといいんじゃないでしょうか、西川きよしさんみたいな思いで。

**司会：**当事者意識つてあるかもしれないですね。奥さんがやるもんだと思わず、一緒にやってる自分がやるんだ、監督やるんだってお話ありましたけど。

**金子：**いいお父さんになろうと思う必要はまったくないと思います。僕もまったくないんで。それは周りが勝手に言うことで、自分なりにできることをやればいいんだと思います。

**司会：**今日は1時間くらいにわたってお話を伺いましたけれども、いろんなヒントをいただきました。ありがとうございます。

※本文中の「みんなで子育てシンポジウム」熱海会場、富士会場については東日本大震災の影響を考慮し開催を中止しました。